

平成30年度後期（第8回）12月実施
キャリアコンサルティング技能検定

1級 実技（論述）試験

実施日 ◆平成30年12月16日（日）

試験時間 ◆14:30～16:30（120分）

★注意事項★

1. 本試験の出題は、必須問題（共通事例）と選択問題（分野別事例から選択）です。事例を読み、必須・選択問題のそれぞれ指定された解答用紙の設問ごとに記述してください。選択問題は、解答用紙の選択した分野の○欄を塗りつぶしてください。記入漏れがあった場合は採点されません。
2. 解答用紙の氏名および受検番号に誤りがないか、確認してください。
3. 試験中は、受検票、腕時計（腕時計型ウェアラブル端末の使用は不可、音を発しないもの）、筆記具（黒の鉛筆またはシャープペンシル・色ペン・消しゴム）以外のもの（定規・メモ用紙・筆記用具入れ等）は机の上に置かず、カバンの中などにしまってください。
4. 受検票は、机上の通路側に見えるように置いてください。
5. 試験室内では、携帯電話、スマートフォンなど全ての通信機器及び電子機器、時計のアラーム等、音の出る機器は使用禁止です。必ず電源を切り、カバンの中などにしまってください。
6. 試験中は、乱丁・落丁・印刷不鮮明に関する質問以外はお受けできません。
7. 不正行為があったときは、すべての解答が無効となります。
8. 試験終了の合図が告げられたら、直ちに筆記具を置き、試験監督者の指示に従ってください。
9. その他、試験監督者の指示に従ってください。指示に従わない場合は、失格となります。

【退席時の注意事項】

1. 試験開始後30分経過した時点で途中退出できます。途中退出する場合には、挙手し、試験監督者の指示に従ってください。問題用紙はお持ち帰りください。
2. 試験終了時刻5分前からは退出できません。試験終了後、試験監督者が解答用紙を回収しますので、着席したままお待ちください。

- 実技試験の合格は、論述試験および面接試験の両方とも合格基準に達することが必要です。
- 平成31年3月22日（金）（予定）に受検者全員に合否通知書を送付いたします。合格者は当協議会のホームページに受検番号を掲載してお知らせします。
(<https://www.career-kentei.org/goukaku/>)

厚生労働大臣指定試験機関

特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会

〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目6番8号 泉芝公園ビル5階 TEL03-5402-4688

☆☆ 解答にあたっての注意事項 ☆☆

1級実技(論述)試験の問題は、**必須問題**と**選択問題**です。

選択問題は、企業分野、需給調整機関分野、教育機関分野の3分野の事例から1つ選び、解答用紙の選択した分野の○欄を塗りつぶしてください(記入漏れがあった場合は採点されません)。

必須問題、選択問題のそれぞれ指定された解答用紙の設問ごとに解答を記述してください。

なお、事例は、事例相談者(キャリアコンサルタント)が相談者に対してキャリアコンサルティングを行った結果をもとに、事例相談者が事例指導を受けるためにまとめたものです。

事例1【必須問題】

事例相談者：男性(62歳)

相談者：A(男性：34歳)

事例2【選択問題：企業分野】

事例相談者：男性(40歳)

相談者：B(女性：32歳)

事例3【選択問題：需給調整機関分野】

事例相談者：男性(42歳)

相談者：C(女性：34歳)

事例4【選択問題：教育機関分野】

事例相談者：女性(45歳)

相談者：D(男性：22歳)

この事例に登場する人物、団体は、本技能検定用に作成したもので、実在のものとは何ら関係ありません。

解答にあたって、**解答用紙の裏面をメモ書き用として使用することは可能です**。なお、裏面および枠外に記述されたものは採点対象にはなりません。

◇試験問題で使用される用語について

事例相談者とは、キャリアコンサルタントのことを指し、自分が実施したキャリアコンサルティング(事例)に関して、面談過程、事例の見立てや対応方針、環境への働きかけ等について相談をする人のことです。

相談者とは、自らの進路相談、職業相談、人事労務に関する相談など、キャリアに関する相談に来た人のことで、事例に登場する人を指します。クライアント、クライアントと同意語として使用しています。

事例1：【必須問題（全員解答）】

次の文章は、事例相談者（キャリアコンサルタント：男性62歳、相談歴2年）が事例指導を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙（必須問題）に記述すること。

相談者：A（男性：34歳）、独身、家電量販店に勤務し、現在は主任。
家族：父（75歳）、妹（32歳）。

【来談経緯】

Aさんはこれまでの店頭での販売実績が評価され、今年主任に昇格し、法人顧客の新規開拓を任されるようになった。しかし、父の怪我という予想外の状況も重なり、業績を上げられていない。上司からは、契約を取ってくるように強く求められ、気持ちばかりが焦っている。さらに、後輩指導についても、しっかり教育するように言われてしまった。主任としてこれから自分はどうすればいいのか、さらに一人暮らしの父親のことも気がかりで、どう向き合っていけばいいのか悩んでおり、相談したい。

【面談経過】（ ）内はキャリアコンサルタントの発言、「 」内は相談者の発言

Aさんは、大学卒業後、家電量販店に就職し、持ち前の人懐っこさもあり、順調に店頭での販売実績を上げてきた。その実績が評価され、今年主任に昇格し、法人顧客の新規開拓を任されるようになった。ところが新たな業務に期待を膨らませていた矢先に、父親が足を骨折して入院した。幸い、杖で歩けるぐらいには回復したが、退院後も通院に付添ったり、父一人では心配なので何度も実家に足を運んだりと何かと時間をとられてしまった。そのような状況で、仕事に集中できなかったことが影響したのか、店頭販売の時のように業績を上げることができないでいる。上司からは契約を取ってくるように強く求められるが、企画提案をしても顧客との商談はなかなかまとまらないし、気持ちが焦るばかりだ。さらに、後輩に対する指導についても、しっかり教育するように言われている。これから先、自分は主任としてどうすればいいのか、一人暮らしの父親の世話にもどう向き合っていけばいいのか、悩んでいるとのことであった。

「そもそも業績が上がらないのは、主任に昇格した時に、父のこともあったからだと思います。」
（お父様のお世話が、仕事に影響してしまったということでしょうか。）

「うーん…主任に昇格してすぐの頃に、予想外に父の怪我や入院があったので、何だか落ち着かなかったというか。」

（そうだったんですね。その後お父様はいかがですか。）

「怪我をしてから気弱になって身の回りの世話も私に頼るようになりました。最近は家も散らかっているし、また転んだりしないかと心配なので、週に1、2回は実家に行くようにしています。しかし、この先もこの状態では仕事に支障をきたしそうです。」

（妹さんと交代でお世話をされていらっしゃるんですか。）

「妹は、遠方に住んでいますし、子どもが小学生なので通うだけでも負担になると思います。だから無理はしなくていいと言ってあります。」

（Aさんお一人だと大変ですね…。ホームヘルパーを頼むなど、地元の行政機関に相談してみてもいいでしょうか。）

「地元の行政機関ですか…。はい、調べてみます。」

(Aさんご自身のお仕事についてですが、なかなか業績が上がらなくて焦っていらっしやる…。)

「はい…、法人のお客様に企画提案書をお持ちしても、なかなか商談がまとまりません。契約してくれそうだと思っていたのに断られてしまうことの繰り返しです。」

(新規顧客の開拓は大変ですね。断られた企業の方に理由をお聞きになったことはありますか。)

「はい、一度だけあります。『一生懸命やってくれたのに申し訳ないんだけど、他社の提案内容がよかったから。』とおっしゃっていましたが、よくわかりません。」

(そうなんですね。)

「それに上司からは『椅子を温めていても、いい案など出てこないぞ。とにかくどんどん企業を訪問してきなさい。』と言われるんです。自分ではいい企画提案だと思って企業にお持ちしても思うように成果があがらないし…。正直、訪問機会が少なくなっています。家に帰ってもそのことで頭がいっぱいです。」

(追い詰められたようなお気持ちになっているのですね。まずは上司が言われているように、地道に訪問を重ねて信頼関係を築いて、相手の懐に入っていき様なやり方がいいのではないかと思います。いかがでしょうか。)

「…そうですね。今までもお客様との信頼関係は大事にしてきたつもりなんですけど。店頭での販売の時はうまくいっていたのに、何がいけないのかな…。最近仕事に自信を持てなくなりました。こんなことでは、後輩の指導もできないですよ。」

(後輩の指導もしっかりやって欲しいと言われているんですね。)

「そうなんです。主任ならば、そういうことも求められるということは分かってはいるのですが、自分の仕事で結果が出せないのに、後輩の指導をしている場合じゃないと思っています。」

(分かってはいるけれど、まずは自分が結果を出さなければと思っていらっしやるんですね。後輩指導は日々のコミュニケーションが大事なのではないでしょうか。そのことと、ご自分の業績とは切り離して考えた方がいいかもしれませんね。)

【所感】

Aさんは、仕事と父の世話という両面で悩まれていた。父親のことについては、Aさんの心情を大切にしながらも、専門機関に相談することでAさんの負担が少しでも軽くなると考え、情報提供を行った。一方、昇格後の新たな業務がうまくいかない理由については、父親の世話が原因の一端であると考えていることが気になったが、Aさんの辛い思いを受け止めて、前向きになれるよう支援を行った。しかしAさんの表情は納得した様子ではなかったことが気になっている。次回の面談でどのように対応したらよいか、指導を受けたい。

- 問1 この相談者Aについて、どのような問題があるか、あなたの考えをその根拠を含めて記述せよ。(15点)
- 問2 この事例相談者の相談者Aへの対応について、どのような問題があるか、あなたの考えを記述せよ。(15点)
- 問3 あなたが、この事例相談者の立場なら相談者Aに対してどのように対応するか、あなたの考えを記述せよ。(20点)

事例 2 : 【選択問題（企業分野）】

次の文章は、事例相談者（キャリアコンサルタント：男性 40 歳、相談歴 1 年）が事例指導を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙（選択問題）に記述すること。選択した分野は、解答用紙（選択問題）の「企業分野」の〇欄を塗りつぶすこと（記入漏れがあった場合、採点されません）。

相談者：B（女性：32 歳）、四年制大学卒業後、食品メーカーに入社し、営業職に従事。

27 歳の時に経営企画室に異動。1 年間の育児休業後、元の職場に復帰し現在に至る。

家族：夫（35 歳）、長女（2 歳）。

【来談経緯】

Bさんは、現在 2 歳の長女を保育園に預け、フルタイムで勤務しているが、残業も少ないので、育児（家庭）と仕事の両立はできている。しかし、今後の自分のキャリアについて考えると、このまま経営企画室の仕事を続けていてよいのか迷いが出てきた。これからの方向性を定めたいと思い、会社が契約しているキャリアコンサルタントに相談に来た。

【面談経過】（ ）内はキャリアコンサルタントの発言、「 」内は相談者の発言

Bさんは新卒で第一志望の現在の企業に入社し、量販店担当の営業チームに配属された。学生時代から得意だった英語力は活かせなかったが、日々の得意先への営業活動は厳しい中でも成長を感じることができた。その後、現在の経営企画室に異動してから、出産、育休も経て 5 年が経過したが、今後の自分のキャリアを考えるとこのままでよいのか迷いが出てきた。

（営業と経営企画室、異なる業務を経験され、次のステップについて迷っていらっしゃるのですね。）

「営業は数字の目標も厳しく大変でしたが、多くの人との出会いがあり楽しかったです。異動になった時はもっと営業をやりたい思いもありましたが、結婚したばかりで子どもも欲しいと思っていましたし、役員の仕事を近くで見るとは将来的に役に立つと思い、気持ちを切り替えました。今は海外のグループ企業の経営に携わる役員の補佐という立場とは言え、私の英語力でもお役に立てているという実感もありますし、同じ部署の人達は育児に理解があって働きやすいです。ただ、最近はこのまま今の仕事を続けていってよいのかと考えてしまいます。やはり現場の仕事をやりたいという思いが強くなってきているんです。」

（以前の営業職に戻りたい、というお気持ちでしょうか。）

「営業でなくてもよいのですが、商品企画とかマーケティングとか、消費者であるお客様と向き合える仕事がしたいです。今のうちに経験しないと年齢を重ねると現場は難しくなるのかな、とも思うし。ジョブ・ローテーション制度で異動の希望は出せるのですが、どうしたものかと…。」

（なるべく若いうちに現場の仕事を経験したいと考えていらっしゃるのですね。今の時期を逃すと異動は難しいのでしょうか。お子さんが小さいとご家庭もきっとお忙しいですよ。）

「新しい職場に異動になれば、できる人達に囲まれて自分は初めから覚えなくてはならないから、すぐには戦力になれないですよ。今は近所にいる私の親も元気なので、サポートしてもらえますけど、むしろこれから子どもが小学校にあがってからのほうが、手の掛かることが多くなると思うんですよ。今頑張って、その時には仕事がこなせるようになっていれば、何とかやりくりできるかなと思って。」

(そうですか。ご両親のサポートもあるということですね。ご主人は何かおっしゃっていますか。)

「主人は広告代理店に勤務していますので仕事は忙しいし、時間も不規則になりがちですけど、育児には協力的ですね。それに子どもはもう一人いてもいいねと、言っています。」

(もう一人、お子さんを考えていらっしゃるのですね。しかしご主人が協力的といっても、現実には育児の負担は母親である、あなたにかかってくるのではないのでしょうか。)

「そうですね…。子どもがいて仕事をするのは大変だね、ってよく言われますが…。(沈黙)。それってちょっと違うんじゃないかなと思うんです。でも実際、うちの会社は女性の管理職も少ないし、今のうちに自分の経験の幅を広げておきたいというのは、やっぱり難しいのかな…。」

(育児のために仕事を諦めたくない。ご自身のキャリアパスとして管理職を目指したいとお考えなのですか。)

「長く働くなら、いずれは管理職になりたいと思います。管理職なんか嫌だという女性社員も多いですけど(笑)。これまでの経験を活かして、マーケティングや商品企画で頑張って、家庭の食卓を豊かな時間にしたいです。でも営業部門はイベントなど休日出勤もあるし、今の部署のように自分のペースで仕事ができる環境ではありません。周りに迷惑かけるのも嫌だし、そう考えると管理部門の方が働きやすいのかなと思ったりします。いろいろ考えるとキャリアの方向性がわからなくなってしまっ。」

(やりたい仕事はあるけれど、今の仕事の方が育児との両立を考えると無理がないというお考えもあるのですね。管理部門で管理職を目指す、という選択肢もあると思いますが、いかがでしょうか。)

「そうですね…。でも経営企画室で管理職になりたいわけではないし。そもそも経営の勉強をしてきたわけではないので無理です。」

(それでは経営企画室以外の管理部門で考えてみてはいかがでしょうか。)

「うーん。まあいろいろな部門に同期のメンバーがいるので、仕事の内容や環境など聞いてみようかと思います。」

【所感】

今回は、集めた情報をもとに、育児との両立を考え無理のない部門はどこかなど、具体的なキャリアプランについて相談することを提案したが、その後予約が入ることはなかった。育児のために仕事を諦めたくないという相談者の思いはしっかりと受け止めたと思う。自分としても相談者にぜひ管理職になってほしいという考えもあり、提案は現実的であったと思うが、今考えると面談の後半で相談者の表情がやや曇ったことが気にかかる。どこがいけなかったのか、指導を受けたい。

問1 この事例相談者が抱えている問題は何か、あなたの考えを記述せよ。(10点)

問2 この事例相談者が抱えている問題に対して優先して取り組むべき目標は何か。また、その目標を達成するために、効果的な支援を行う方法や内容について具体的に記述せよ。(20点)

問3 この事例相談者が相談者を支援するために必要なネットワークや環境への働きかけは何か。また、なぜそれが必要であるか根拠を記述せよ。(20点)

事例3：【選択問題（需給調整機関分野）】

次の文章は、事例相談者（キャリアコンサルタント：男性42歳、相談歴3年）が事例相談を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙（選択問題）に記述すること。選択した分野は、解答用紙（選択問題）の「需給調整分野」の○欄を塗りつぶすこと（記入漏れがあった場合、採点されません）。

相談者：C（女性：34歳）、四年制大学英文科卒、独身。

家族：父（65歳）、母（64歳）、弟（30歳）。

【来談経緯】

大学卒業後、外資系のバレエ・ダンス用品の輸入販売会社に就職したが、2年後に日本から撤退することになり、会社の再就職支援を受けてスポーツ用品店の販売員に転職した。その頃からヨガに興味を持ち、レッスンに通っているうちに本格的に取り組みたいと思い、インストラクターの資格を取得。その後、知り合いからの誘いがあり、会社を辞めて現在のスポーツクラブのヨガ講師になった。これまでは楽しく働いてきたが、最近、将来のことを考えるとこのままでいいのかと不安に思うようになり、相談に来た。

【面談経過】（ ）内はキャリアコンサルタントの発言、「 」内は相談者の発言

Cさんは、このままいつまでもスポーツクラブの時間給講師でよいのか悩むようになった。ヨガインストラクターは楽しいし、やりがいはあるものの、自分の将来のことや両親のことを考えるととても不安で、今のうちに正規雇用の職場に転職した方がよいのかと思うようになった。

（このままヨガのインストラクターを続けていくことに、迷いが出てきたと言うことですね。）

「はい。仕事は楽しくやっています。ヨガは今とても人気があって、お客様も皆さんいい方ばかりですし、年齢層も広くていろんな方と接することができるのでとても楽しいです。でも、同年代で子育てをしながら毎日楽しそうにしている方や、会社帰りに来られて、疲れたあ、とか話しながらも生き生きとしている人たちをみると、私はこのままでよいのだろうか…とってしまいます。」

（なるほど、ヨガには同年代の人も通ってこられるし、違う環境の方にお会いすると、自分はこのままでいいのか、とってしまうのですね。）

「そうなんです。それに、よくお客様からは『先生は毎日ヨガが出来るし、ゆったりしている感じで、とても羨ましいわあ』と言われてたりしますが、ヨガインストラクターはまずは体力勝負だし、勤務時間も不規則なので、気力と体力の両方が必要です。それに給与もそんなにもらっているわけではありません。自分自身のトレーニングのための研修費用とかも結構掛かるんです…。」

（ヨガインストラクターというイメージだけで羨ましがられるけど、現実そんなに甘くない、というところでしょうか。）

「はい…。それに、同年代の人たちを見ていて、なんとなく引け目を感じてしまうんです…。自分自身の将来が見えなくて、最近とても不安になってきました。このままスポーツクラブの時間給講師でよいのかとか、何歳までやっていけるのかなとか…。」

（インストラクターのお仕事に引け目を感じることはないと思いますよ。なぜヨガインストラ

クターになられたのですか。)

「もともと身体を動かすのが好きでしたから。会社に勤めていたときにヨガに興味を持ち、ヨガ教室に通っているうちに本格的にやりたいと思うようになりました。インストラクターの資格を取った後、知り合いに誘われて、自然にといいますか…。好きなことを仕事にできるということに魅力を感じて、スポーツクラブのヨガ講師になったんですけど…。」

(ヨガは好きだけど、将来への不安もあるということですね。ご両親のことも気にかかるとおっしゃっていましたが…。)

「はい、今はまだ両親とも健在ですが、いずれは介護も必要になると思います。弟がいますが、結婚して義妹の実家の近所に住んでいるので、頼りにはできません。うちの父と母は、長女の私が面倒をみることになると思います。」

(それで、将来的にも安定した正社員の仕事に転職したほうがよいのでは、と考え始めたのでしょうか。)

「そうですね。ヨガインストラクターになる前は、スポーツ用品店に勤めていましたし、その前は大学を出てすぐですが、バレエやダンスのウェアなどを輸入販売する外資系の会社で働いていました。両方とも、正社員として勤めていましたが、そういう経験は活かせるのでしょうか。」

(転職活動は、はじめていらっしゃいますか。具体的にはどのような仕事がしたいですか。)

「うーん、まだ転職活動はしていません。今までは人と接する仕事をしてきましたが、これとってやりたい仕事とか目標が決まっているわけではないです。目標が決まっていなくて転職は難しいですか。」

(そんなことはありません。ただやりたいことが決まっていれば、業種、職種がはっきりして求人案件を探すのにも的を絞れます。Cさんに合った仕事を選ぶためにも、次回は仕事の棚卸しなどをやって、Cさんご自身が気付かれていない強み・特徴などを調べてみたいと思います。)

事例相談者はCさんが年齢的にキャリアの転機に差し掛かっていることを説明し、この転機を乗り越えるために一緒に考え、支援をしていくつもりであることを話して、次回につなげた。

【所感】

Cさんは、ヨガは好きではあるが、将来のことを考えると今の仕事を続けていくことに不安を感じ、正規雇用への転職を希望している。キャリアコンサルタントとしては、Cさんが希望に合う仕事に就けるように支援したいと考え、傾聴につとめ、情報提供を行った。最後は納得した様子ではあったが、次の予約はキャンセルとなった。その後予約はない。面談に何か問題があったのかと気になっているため、指導を受けたい。

問1 この事例相談者が抱えている問題は何か、あなたの考えを記述せよ。(10点)

問2 この事例相談者が抱えている問題に対して優先して取り組むべき目標は何か。また、その目標を達成するために、効果的な支援を行う方法や内容について具体的に記述せよ。(20点)

問3 この事例相談者が相談者を支援するために必要なネットワークや環境への働きかけは何か。また、なぜそれが必要であるか根拠を記述せよ。(20点)

事例4：【選択問題（教育機関分野）】

次の文章は、事例相談者（キャリアコンサルタント：女性45歳、大学のキャリアセンターにて相談歴2年）が事例相談を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙（選択問題）に記述すること。選択した分野は、解答用紙（選択問題）の「教育分野」の○欄を塗りつぶすこと（記入漏れがあった場合、採点されません）。

相談者：D（男性：22歳）、私立四年制大学理工学部建築学科4年生。

家族：父（54歳）大手家電メーカー勤務、母（52歳）専業主婦。

相談月：11月上旬。

【来談経緯】

Dさんは、就職活動において、10数社のゲーム制作会社やIT系企業の選考を受け、全て不合格となっていた。しかし、9月になって父親の紹介で、父親が勤務する大手家電メーカーW社の選考を受けたところ、内定が決まった。Dさんは、就職活動が終わることの安堵感から一旦は内定を承諾したが、内定が父親の意向に沿ったものであることや、父親と同じ企業に勤務することに抵抗を感じ、辞退したいと思いはじめた。11月上旬、今後についてどうすればよいか悩み、初めてキャリアセンターを訪れた。

【面談経過】（ ）内はキャリアコンサルタントの発言、「 」内は相談者の発言

Dさんは、内定先のW社を辞退したいと考えていて、そういうことは出来るか、と不安そうに話し始めた。キャリアコンサルタントは、人気企業であるW社の内定辞退に対しては何か理由があるのだろうと察し、詳しく話を聞くことにした。

（内定辞退は今からでも出来ますが、何か理由があるのですか。）

「W社は、父親の勤務先で、父は部長職をしています。父親からW社を受けるようにと言われ選考を受け、内定が決まりました。5月ぐらいから10数社を受け続けていたのですが全て不合格で、父からはさんざん叱られていました。内定をもらった時は、これで父親も何も言わなくなると思ってちょっと安心したんです…。でも冷静に考えると、父親の力で入れたのではこの先も父に頭が上がらないことになり変わらないと思い、自力で内定を取るために、やっぱりW社の内定を辞退したいと思います。」

（紹介していただいたの内定はよくあります。内定が取れたのは、Dさんが評価されたということだと思うので、紹介といえども人気のW社に内定したことはすごいことですよ。引け目に感じることはないと思います。）

「うーん（沈黙）」

（たしかに大学での専攻分野ではないですね。勉強してきたことが活かさないことも気になっているのですか。）

「違います。将来の仕事は建築以外でと思っています。建築デザインに興味があったので、デザイン系のゼミに入ったのですが、同級生は発想力とか本当に凄いので、いつも彼らのデザインに圧倒されていました。でも、自分は卒業制作でも指導員からはダメ出しの連続だし、建築自体には向いていないと思います。」

（そうですか。建築には向いていないと…。）

「はい。ゲームやアプリのデザインに興味があったので、それを手掛けるゲーム制作の会社や IT 系企業を中心に応募したのですが、選考でのグループ面接でハキハキと自分の意見を言える他の学生を見て緊張してしまい、うまく話せませんでした。」

(ゼミでも就活でも上手くいかないと、余計に自信がなくなってしまうですね。それでお父様が心配されてW社を紹介されたんですね。W社であれば、配属先によってはDさんの希望する職種もあると思いますよ。)

「それはそうなのですが…、今回のこともそうですが、いつも父は、おまえのため、という理由で、進路やその他色々なことに干渉してきます。最近は納得できないことが多くて言い争いになることもあります。『意見するなら自分を超えて一人前になってからにしろ!』と言われると何も言えなくなります。就活が上手くいかない時も『こんな売り手市場の時に内定が出ないのは、余程プレゼンが下手か、大学でぼんやり過ごしているからだ。そんなようじゃ相手にされないぞ。』と言われました。有名国立大出身で、大手のW社で部長職に就いている父親に、何を言っても敵わないと思うけど、自分を見下した態度は許せません。ここでW社に入社したら、これからはずっと父親から下に見られてしまい自分がダメになってしまう…。社会人になっても何も変わらない気がするのでやっぱり内定を辞退したいです。」

(Dさんの気持ちは、よくわかりました。それはお父様には話しましたか。)

「先週、母から父に伝えてもらおうと思って相談したのですが、『お父さんの顔を潰すことになるのよ。大きい会社だからそんなに顔を合わせることもないでしょう。』と言われ、取り合ってもらえませんでした。」

(そうでしたか。言いづらいのかもしれませんが、内定辞退については、Dさんご自身でお父様にしっかり伝えたほうがいいと思いますよ。よかったらアサーション・トレーニングをやってみませんか。)

「そうですね…。うまく父に伝えられるんだったらやってみたいと思います。よろしくお願いします。」

(わかりました。それに、この時期でも応募出来る IT 系の企業はまだあります。今から応募できる企業を 2、3 社ピックアップしておきますね。選考で緊張しないように、面接の練習もやってみましょう。一緒に頑張りましょう。)

「はい、よろしくお願いします。相談して良かったです。」

【所感】

初回面談において、気持ちに添って話を聞いたことで、Dさんは詳しい状況を話してくれた。また面談終了間際には表情は和らぎ、安心した様子だったことから、概ね上手くいったと思っていたが、翌週の約束の時間にDさんは来室せず、それから2週間経っても連絡がない。切羽詰った状況だったと気になっているが、なぜ継続面談に繋がらなかったのか、今後の相談のためにも指導を受けたい。

問1 この事例相談者が抱えている問題は何か、あなたの考えを記述せよ。(10点)

問2 この事例相談者が抱えている問題に対して優先して取り組むべき目標は何か。また、その目標を達成するために、効果的な支援を行う方法や内容について具体的に記述せよ。(20点)

問3 この事例相談者が相談者を支援するために必要なネットワークや環境への働きかけは何か。また、なぜそれが必要であるか根拠を記述せよ。(20点)

